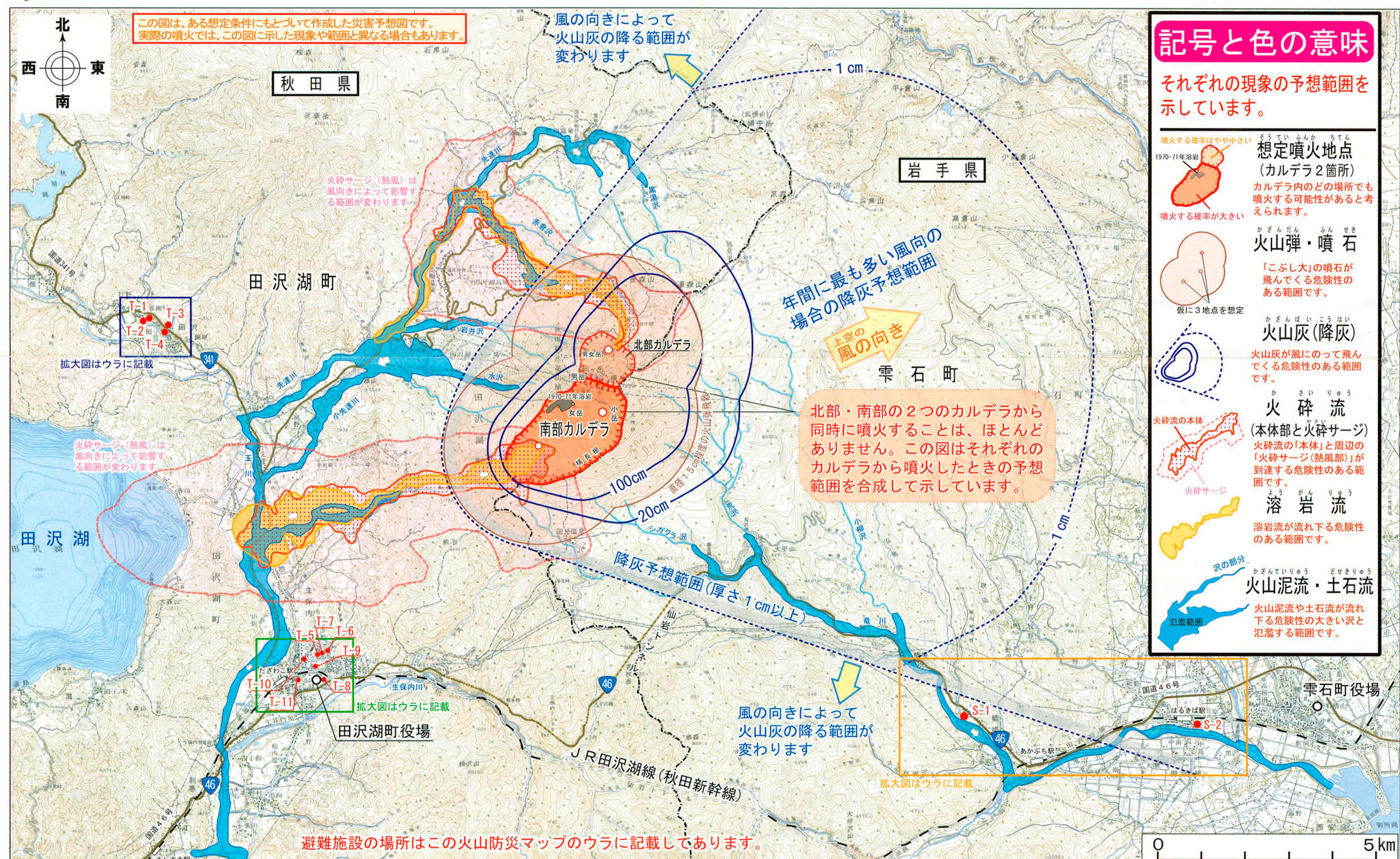


# 万が一の噴火に備えて 秋田駒ヶ岳火山防災マップ

秋田駒ヶ岳は活火山です

このマップ  
の内容に  
ついての  
お問い合わせ先

TEL.0187-43-1111  
TEL.019-692-2111  
TEL.018-860-1111  
TEL.019-651-3111  
国土交通省 湯沢工事事務所(調査第一課) TEL.0183-73-3174  
国土交通省 岩手工事事務所(調査第一課) TEL.019-624-3131



## 避難場所

田沢湖町

T-2 田沢民体育馆  
T-3 田沢中学校  
T-4 田沢小学校

T-5 田沢湖町民会館  
T-6 生保内民体育馆  
T-7 生保内武道館  
T-8 田沢湖町総合開発センター  
T-9 生保内中学校  
T-10 生保内小学校  
T-11 田沢湖町商工会館

雲石町

火山の異常を見つけたら

秋田駒ヶ岳の異常現象についての連絡先

秋田地方気象台(技術課)  
TEL.018-823-8291  
盛岡地方気象台(技術課)  
TEL.019-622-7868

## このマップを作成した目的



秋田駒ヶ岳は、わたくしあの町に温泉や素晴らしい景観など火山の恵みをたくさん与えてくれる大切な山です。  
しかし、一方では、秋田駒ヶ岳はこれからも噴火をするかもしれない活火山でもあります。

1932(昭和7年)や1970~71(昭和45~46年)の噴火では、幸いに大きな被害はありませんでしたが、今後、もし噴火した場合にそなえて「活火山・秋田駒ヶ岳」のことをよく知っておくことも大切です。

この「火山防災マップ」は、秋田駒ヶ岳の過去の火山活動や、もし噴火した場合に想定される火山災害などを地域のみなさんにとって頂くために作成したもので。

なお、近年の秋田駒ヶ岳は静穏な状態ですので、すぐに噴火が起きるような兆候は現在のところありません。

## このマップで想定している噴火規模

秋田駒ヶ岳では、過去約2000年の噴火で溶岩流・火砕流・火山灰や噴石などが発生しています。このマップは、過去約2000年の噴火の最大規模を参考に、今後も起る可能性がある噴火を想定したものです。火口は「南部カルデラ」と「北部カルデラ」から代表として3地点を想定しましたが、カルデラ内の他の場所に火口ができる可能性もあります。

**想定火口位置**  
北部カルデラ：中央部「地岳」、東部「仙岳」、西側「小岳」  
南部カルデラ：「小岳」と「南岳」

**想定した現象と噴出量**  
溶岩流：北岳1,000m<sup>3</sup>、南岳1,000m<sup>3</sup>、仙岳1,000m<sup>3</sup>、小岳8,100m<sup>3</sup>(1970-1971年)  
火砕流：北岳4,700m<sup>3</sup>、南岳4,700m<sup>3</sup>、仙岳2,700m<sup>3</sup>、小岳2,200m<sup>3</sup>  
噴石勘定：各火口30km圏内半径2.1km以内

## 近年(明治時代以降)の火山活動



秋田駒ヶ岳は、下の表に示すように近年(明治以降)には3回噴火しています。

このうち最も新しい1970~71年(昭和45~46年)の噴火では、右の写真のように少量の溶岩流を噴出しました。この溶岩流の跡は、現在でも女岳西側斜面にはっきりと見ることができます。

1932年の噴火活動は女岳の南西側、南部カルデラの中へ火口ができるで少量の泥流と降灰などの噴出がありました。このことは有害な火山ガスの発生や火口周辺の樹木の枯死などが確認されています。



1970~71年噴火の様子

この「火山防災マップ」は、秋田駒ヶ岳の過去の火山活動や、もし噴火した場合に想定される火山災害などを地域のみなさんにとって頂くために作成したもので。

なお、近年の秋田駒ヶ岳は静穏な状態ですので、すぐに噴火が起きるような兆候は現在のところありません。

## 近年の噴火状況

噴火した年	噴火の内容
1890~91(明治23~24年)	12月から翌年1月まで噴火(?)。鳴動や噴石があったらしいが詳しいことは不明。
1932(昭和7年)	7月21~30まで南部カルデラで小規模な噴火(火蒸氣爆発)。火口列が形成。少量の降灰と泥流あり。樹木の枯死や有害な火山ガスの発生あり。
1970~71(昭和45~46年)	8月末頃に女岳山頂に噴火孔が形成。9月18日~翌年1月26日まで女岳山頂から噴火。頻繁に爆発し溶岩流を少しづつ流出。噴出物総量約170万m <sup>3</sup> 。

## 噴火現象の説明

### 溶岩流



どろどろの溶岩(マグマ)が火口からあふれて流れ出したものです。普通は、速度が遅く、走って逃げることができます。

溶岩流の通過した場所は全て焼き尽くされ埋められてしまいます。

### 噴石・火山弾



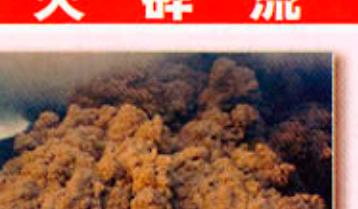
噴火により高温の岩石が火口から放出されます。破壊力が大きく火口付近の建物などは容易に破壊されます。時には直径1m以上の岩塊が飛んでくることもありますので、噴火時には火口の近くに寄ると大変危険です。

### 火山泥流・土石流



火山泥流は、火砕流や放出された噴石や溶岩流の熱により、斜面の雪が融けて発生します。  
土石流は、火山灰が斜面に堆積して水が地面にしみ込みにくいために雨が降った場合、雨水が一気に川に集まり発生します。

## 火砕流



高温の火山灰や岩塊、火山ガスなどが混じり合い斜面を高速(時速数十km)で流れ下ります。

高温のガス(火砕サージ)は本体部よりも遠くまで達し大きな被害をもたらす極めて危険な現象です。

## 火山灰(降灰)



噴火によって火口から放出されます。火山灰は細かいため風に流されて風下側に多く降り積もります。通常は南西風が多いため主に東側に積もると予想されますが、天候や時期によって風向きが異なるため注意が必要です。

## その他の現象

下に示すような現象が起きることがありますので注意して下さい。

### 地震

噴火の前に大きな地震がおきることもあります。また、地震によって地面が大きく変形したり(地盤変動)することもあります。

### 火山ガス

火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。低い場所に溜まりやすいので噴火時に火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。低い場所に溜まりやすいので噴火時に火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。低い場所に溜まりやすいので噴火時に火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。低い場所に溜まりやすいので噴火時に火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。

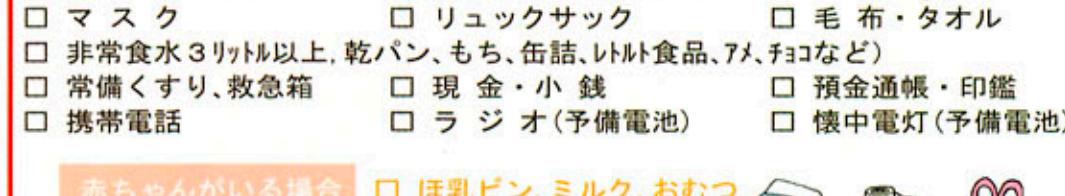
### 山体崩壊

極めて稀ですが、地震や噴火が引き金になり山が大きく崩壊することがあります。

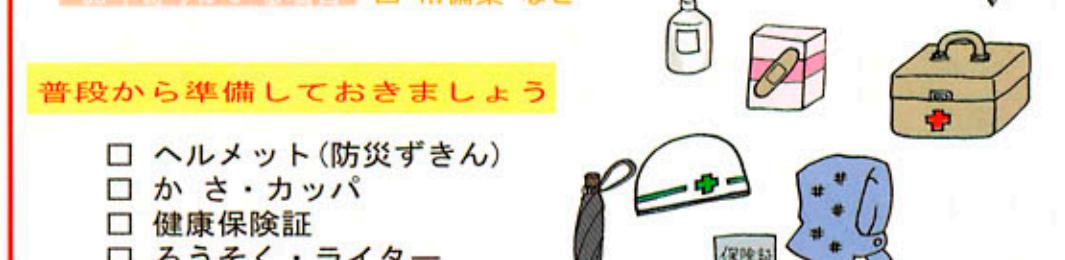
## 非常持ち出し品



火山噴火以外の災害にも役立ちます



火山噴火以外の災害にも役立ちます



火山噴火以外の災害にも役立ちます

